

④1 芳賀・宇都宮LRT事業

受賞機関 宇都宮市
栃木県芳賀町キーワード LRT、市民・町民・企業参画の取組、
マイルール意識

全建賞審査委員会の評価ポイント

全線新設でのLRT整備。鬼怒川渡河部や主要交差点部を専用高架化することで定時性・速達性を向上させたほか、将来的な制限速度の見直しにも対応が可能となるよう各種施設を設計し、オープンハウスや見学会等で住民理解の促進にも努めて完成した点が評価された。

1. はじめに

宇都宮市では、100年先も持続的に発展できる「スーパースマートシティ」の実現を目指し、その土台であるコンパクトなまちが公共交通でつながった「ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）」の形成を進めており、これを支える総合的な公共交通ネットワークの要として芳賀・宇都宮LRT（ライトライン）の整備を行ってきた。令和5年8月26日、全線新設の路面電車として国内では75年ぶりとなるJR宇都宮駅東側のライトラインが開業し、令和6年4月20日には想定より約2ヶ月早く300万人の方にご利用いただくなど、地域の移動手段として定着しつつある。

2. 事業の概要

ライトラインは、定時性など基幹公共交通にふさわしい機能のほか、他の交通との円滑な連携や停留場と車両に段差がなくバリアフリーな設計により乗り降りしやすい工夫が図られており、全長は30m以下の規定に基づき29,520m、定員は国内の低床式車両の中で最大級となる159人と高い輸送力がある。

ライトラインの整備に当たっては、東京スカイツリーと同程度の延長（643m）となる「鬼怒川橋梁」を架設するとともに、栃木県内有数の渋滞ポイントである野高谷町交差点においては高架橋工事などを行い、全19停留場からなる約14.6kmを走行している。

3. 市民理解の促進

本地域では、路面電車の文化がないことから、公共交通ネットワーク構築の必要性などについて情報発信を行うとともに、事業の進捗状況に応じ、説明会、車両の見学会などを実施してきた。

また、地域に愛され、支えられていく公共交通となるよう、市民・町民・企業参画の取組として、車両デザイン等のアンケートの実施や停車場ベンチドネーションの募集などを実施し、マイルール意識の醸成に取り組んできた。



鬼怒川橋梁とライトライン

4. 事業の効果

開業後のアンケート調査では、沿線内における40歳以上の一日当たりの平均歩数が349歩増加するなど健康増進が期待される結果となった。また、沿線では、平成24年と令和5年を比較して、住宅地の地価が約11%、人口が約8%上昇するとともに、高層建築物の建築確認件数が増加し、マンションの建設による土地の高度化が図られるなど、様々な効果が発現している。

5. JR宇都宮駅西側区間の整備

JR宇都宮駅西側については、NCC形成の一層の推進とその効果が早期に発現できるよう、「大谷観光地付近」までを引き続き調査・検討を進めるライトラインの「検討区間」とし、そのうち、「宇都宮駅東口停留場から教育会館付近」までを着実に整備を進める「整備区間」とした。今後は、軌道運送高度化実施計画の策定に必要な各種調査・検討や関係機関との協議・調整を迅速に進め、2030年代前半の開業を目指している。

6. おわりに

本市では今後も公共交通ネットワークの要となるライトラインの整備を進めていく。栃木県に來られる機会があれば、ぜひライトラインを体験していただきたい。



開業日のパレード

賛助会員 中央復建コンサルタンツ(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、オリエンタル白石(株)、三井住友建設(株)、川田建設(株)